

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐 (すずらん)		
所在地	奈良県榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	平成27年11月11日	評価結果市町村受理日	平成28年1月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action_kouhyou_detail_2014_007_kani=true&JigyosyoCd=2990500049-00&PrefCd=29&VersionCd=007
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成27年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成27年6月より医療連携体制を整える事が出来24時間対応のかかりつけ医と連携し切れ目のない医療体制を取ることによりきめ細かい利用者様の体調管理を実現しております。そして日常生活の家庭的な雰囲気を大切にしています。又日ごろより散歩や外出の機会など多く持つようにしています。この度は順番に個々のケアに取り組む事が出来ました。1階2階に予定を組みお寿司&ドライブに行き頂きました。お寿司は近隣のくら寿司又ドライブは明日香方面へと車を走らせ石舞台の所で写真撮影 利用者様2名スタッフ2名と個別に対応させて頂き どの利用者様もいいお顔で写真に修める事が出来ました。利用者様に季節を感じて頂き日々の生活の中に楽しみを見つけながらグループホームと言う共同生活で一日も長く暮らして頂く取り組みを継続して行きたいです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く」を事業所独自の理念に掲げ、利用者の意向に沿って日々穏やかに暮らしてもらうために職員の意見を幅広く聞き連携を図り、理念にそった支援となるよう取り組んでいます。。自治会に加入し地域の清掃活動やオレンジカフェの開催に職員が協力したり、太鼓や朗読などのボランティアや近隣の中学生による吹奏楽の演奏の訪問の他、今年5回目を迎えたニチイ祭りは徐々に地域に浸透し近隣の方の参加を得て共に楽しみ、利用者が地域の方と交流できる機会が広がっています。今年度は医療連携体制も整え本人や家族の意向があれば住み慣れたホームで最期の時を迎えてもらえるよう家族や医師の協力を得ながら看取り支援に取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心して そして 穏やかに暮らして頂く」をホームの理念として日々の業務を実践しています。そして理念に基づいた環境作りに努めています。	会議で職員の思いを集約し、利用者に穏やかに暮らしてもらいたいとの思いを込めて事業所独自の理念を作り、玄関に掲示して意識付けをしています。職員の入職時に理念の意義を伝え、会議時などで日々の支援の全てに理念に繋がっているか立ち戻り確認し理念が実践できるよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	第5回目のニチ祭りを予定しています。チラシを作成し全スタッフでポスティングをして一人でも多く参加して頂きたく取り組んでいます。又地域の行事にも参加させて頂く取り組みも実践して行きたいと考えています。	自治会に加入し地域の広報や案内をもらい、近隣の清掃に職員が参加したり、オレンジカフェの開催に協力する等積極的に地域と関わっています。事業所の祭りでは近隣の中学生の吹奏楽の演奏があったり、朗読や太鼓の演奏のボランティアの訪問の他、近隣の方の参加がある等、利用者が地域の方と交流し共に楽しめる機会となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今回初めて榎原市地域包括が開催されているオレンジカフェに参加させて頂きました。今後も参加させて頂き抱えて居られる不安など聞かせて頂きたく思っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動について報告し参加の皆さんに意見を頂きサービスに反映させています。充実した会議になる様常に取り組んでいます。	会議は多くの方の参加を得られるよう日程を工夫して2か月に1回、家族や介護相談員、市職員等の参加の下開催し、活動報告や意見交換をしています。感染症対策の話の聞いたり、食事の摂取について意見をもらい食事内容を工夫する等、意見を運営に反映しています。会議の内容は家族へ議事録を送付し、職員へは日々の支援の中で伝えていきます。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員さんを受け入れて 貴重なご意見を頂いています。そして行政の担当のかたに現場の実情を伝える機会を作っています。	運営推進会議に市職員の参加があり、事業所の取り組みを伝えていきます。運営上の必要な確認等は行政の窓口への訪問や電話で行い、市の介護相談員派遣事業の連絡会に参加し意見交換をしています。市から研修の案内が届き可能な物には参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを重視し開放的な環境作りに努めています。委員会活動を職員研修に取り入れて正しく理解し意識付けをしてケアに取り組んでいます。	事業所内に身体拘束委員会があり年1回研修を行い身体拘束防止のための知識を得たり、会議等でも随時話し合っています。フロア入口は鍵をしないことを基本に、体制等でやむを得ず施錠する際はリーダーに報告し最少限になるように取り組んでいます。職員間で連携して見守りを行い、利用者が自由に過ごせるような関わりを大切に支援しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	普段から現場での介助に目を配っており不適切な介助、接遇については随時指導し取り組んでいます。		

ニチケアセンター檀原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在 後見人制度を活用している利用者様が居られるので今後も支援する機会があれば活用して行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後には利用者様家族様には要望を聞いて十分な説明を行い安心して利用して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に一回運営推進会議を開催しています。会議の中で貴重なご意見を頂いています。又面会時や介護計画説明時にも、こちらから意見や要望をうかがう様にさせて頂いています。	年1回法人で実施のアンケートや運営推進会議、面会時等に家族から意見を聞き、利用者からは日々支援する中や介護相談員の来訪時等に意見を聞いています。家族から体を動かす機会を増やして欲しいとの意見をもらい体操を増やす等、意見を運営に反映しています。アンケートの結果は事業所にフィードバックされています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員と管理者は普段のコミュニケーションの中で随時意見を交換しアクティビティや個々の介助等の提案について積極的に取り入れるようにしている。又ホーム会議やカンファ等で意見や提案を出しやすい環境づくりに努めています。	全体会議やフロア会議、日々コミュニケーションを図り随時職員から意見を聞いています。利用者への対応や職員には行事やケア等の担当があり、担当としての意見も積極的に出されています。得られた意見や提案は可能なことは速やかに取り組み、必要に応じ会議で検討し実施しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き易い明るい環境作りに努めています。人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出来るだけ調整しています。働きながらのトレーニングはその時々と併せて必要な声かけを行う努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談派遣事業における三者関連連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの向上に努めています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきちんと踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築出来る様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時から家族の思いや不安など少しでも気になる事があれば気軽に質問して頂ける様案内し、家族等の見学や質問などにも積極的に対応するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族さん本人の意向を伺い必要なケアが提供出来る様対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でスタッフも家族の一員と言う支店で関わるようにしている。本人の経験や趣味を活かし干し柿野菜の世話料理など負担にならない様役割を持って頂ける様努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時に散歩や外出に付き添って頂いたり家族の思いを尊重し共に理解し支援出来るように努めています。又行事にも参加して頂き交流を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族様と一緒に外出に制限は無いことをお伝えし家族様と外出や帰省される場合は情報提供や介助方法のアドバイスを等支援を行っています。	友人や知人、依然関わりのあった民生委員等の来訪があり、居室でゆっくり過ごせるよう配慮をしています。家族の協力を得て外泊をしたり、法事等へ外出する時は体調管理や服装等の事前の準備を支援しています。年賀状を作成するには利用者の出来ない所を支援する等、馴染みの人や場所との関係が継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	テーブルやフロアで座る場所を利用者様同士が上手く関わりが持てるようにスタッフが誘導・気配りしており楽しく安心して過ごせるように対応しています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方については差し障りのない範囲で家族様から状況を伺い希望により相談を受けさせて頂いたり交流を持っています。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で一人ではなく個々の思いに沿った関わりができる様努めています。行動を強制する事無く自然な状態で一日一日を過ごして頂いています。	入居時に本人や家族から希望や思い、生活歴等を聞き家族にもアセスメントシートに記入してもらい職員間で共有しています。利用者が入居前に利用していた事業所からも情報を聞いています。入居後は日々の記録に利用者の言葉や様子を記録しアセスメントシートにも追記しています。把握の困難な場合でも利用者の様子や表情から汲み取り、職員間で本人本位に検討し思いや希望の把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居まえの面談時に本人や家族様からの情報を得られるように努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努力しています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や水分排泄を確認し普段からの状態の変化に対応出来る様取り組んでいます。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	介護計画は、利用者や家族から聞いた思い、アセスメントを基に作成しています。入居後初回は暫定で立て1か月で見直し、その後は利用者の状態が安定していれば3~4か月毎に見直しています。見直し前にモニタリングを行い計画の実施状況を確認し、追記したアセスメントを基にサービス担当者会議を開き、事前に聞いた家族や職員、看護師、医師等の意見も反映して介護計画を見直しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録申し送りなどスタッフで共有しケアに行かせるようにしています。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。			

ニチケアセンター檀原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が歩んできたこれまでの生活がなるべく途切れの無いように生き活きと暮らせるように支援させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医当診療所との連携を図り協力体制を作り支援させて頂いています。	入居時にかかりつけ医を継続できる事を伝え協力医についても説明し選択してもらっています。かかりつけ医は家族の対応で受診し、月に2回協力医の往診を受け、いずれも受診結果等の必要な情報は家族と交換しています。緊急時は協力医と24時間連絡が可能となっており、訪問看護師の健康チェックや必要に応じて歯科の往診や訪問マッサージ等も受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様医療介護が連携を取れるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人 家族様の意向を重視し相談しながら早期退院に向けて対応させて頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂けるように主治医や家族様と相談しながら最大限対応出来る様取り組んでいます。	入居時に家族へ重度化の指針に基づいて事業所でも対応可能なことを説明しています。利用者の状態が進んだ際は医師から状態を説明してもらい家族の意向を確認し看取りの体制を整え支援しています。家族の協力を得て、医師との連絡体制等も整え職員が不安なく適切に看取りの支援に取り組めるようにしています。看取りの事例があれば振り返りを行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練を実施しています。そしてAED設置 応急手当の講習会も定期的に行い実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を張り出し意識を持って努めています。	訓練は年2回それぞれ昼夜を想定して内1回は消防署立会いの下、利用者と共に火場所を想定し通報や避難誘導等を実施し、消火器の使用方法も学んでいます。訓練を実施する際は近隣へ案内し、地域の消防団へは事業所の災害発生時の協力を依頼しています。食料や飲み物の備蓄も行い災害に備えています。	

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	スタッフが居室に入るときは 必ず本人に声を掛ける等プライバシーを守る接遇を心がけている又その方に合わせた話しかけがなされる配慮しています。	年1回接客マナーの研修を実施し、日々の支援の中でも職員に接客マナーについて話しています。個々の職員が事業所の顔として信頼を得られるような対応をするように伝え、利用者に応じた分かりやすい声かけをするように努めています。排泄や入浴時の声かけは羞恥心に配慮し、馴れ合い等職員の不適切な声かけがあればその都度注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の中で食事の準備や片付け 洗濯などの声かけ等庭やベランダに気軽に出られることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい事や身体状況を見ながら取り組み支援出来る事に努めています。そして充実した一日を過ごして頂けるようにコミュニケーションを取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているお洒落心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけ等させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備 配膳 片付けなど自発的に参加して頂いている。又畑で収穫した野菜を食事に取り入れるため普段からなるべく利用者さんと一緒にさせて頂いている。そしてメニューや調理方法を教えて頂いたりしています。	献立は職員が毎日肉や魚等が重ならないように配慮して決めています。利用者は包丁での皮むきや盛り付け、洗い物等に携わってもらい、利用者の苦手な物には代替を用意しています。少人数で回転寿司へ行ったり、出前や弁当を作って花見に出掛けたり、畑で作った野菜を料理で使う等、食事が楽しいものとなるように支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量も記録して支援していきます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きうがい 義歯洗浄をしている。ご本人が出来ない場合はスタッフが介助させて頂きます。月2回訪問歯科で口腔ケアマッサージを行っています。		

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しある程度予測して声かけをする事で紙パンツの使用を減らしている。尿意便意のある方にはさり気ない声かけや見守り確認などで重視した支援を行っています。	利用者個々に排泄記録を取りパターンを把握して声かけや誘導を行っています。夜間はポータブルトイレを使用する人も日中はトイレで排泄できるよう支援しています。支援を継続することで紙パンツから布の下着へ変わる等、排泄状況が改善した利用者もおり最適な排泄用品の種類等を職員間で検討したり、失敗の原因も探ることで排泄の支援に活かしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日のラジオ体操 散歩を日課にしており食事形態 毎日の水分補給 取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて朝から入浴して頂く事もあります。又入浴剤も入れて気持ちよく入って頂く様にしています。	入浴は週2回以上を目安に朝や日中の時間帯に支援し、日中であれば利用者の希望の時間帯の入浴に対応しています。好きな歌を歌いながら入浴したり、好みの入浴剤を使用して保湿を高めたり、色や香りを楽しんでもらっています。入浴拒否が見られる利用者は声かけを工夫したり、シャワー浴や足浴に変更することもあり、無理のないよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は個室になっており本人の希望に応じて 少し横になったり お昼寝をしたりテレビを付けたまま寝たりなど自由に使っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 薬剤師と連携をとりながら個人のお薬ケースと説明書を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の希望により役割を分担して出来る作業を行っています。ご本人の好きな事得意な事を見つけ塗り絵や絵を書いたり習字など可能な物は個別対応で実施しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気候の良い日は散歩に出かけます。最近では外食ドライブなど個々の希望に応じて実施しています。	気候の良い時期は日々散歩を実施し近くの公園へ出掛けたり、駐車場に椅子を出してお茶を飲んだり、ベランダで外気浴を楽しんでいます。桜やコスモス等の季節の花を見に行ったり、外で食事会を開催する等、利用者に負担の無い範囲で外出する機会を作っています。外出行事の際は家族にも参加を呼び掛け共に楽しんでもらっています。	

ニチケアセンター榎原醍醐(すずらん)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしています。希望に応じて使えるように支援させて頂いています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも希望に応じてお電話したり お手紙を出したり出来る環境作りに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある壁面工作や写真を掲示し 何気なく利用者様のお話にも出てきます。廊下や浴室に暖房をつけて温度差のリスクに対応させて頂いています。	共用空間は行事の写真を掲示したり、利用者の手作りの作品や季節の飾り付けを行い温かい雰囲気を作っています。テーブルや椅子は利用者同士の相性を考慮して配置し、清掃は利用者も参加して毎日行い清潔保持を心掛けています。室温の管理は利用者の体感も考慮して調整し加湿器も使用して過ごしやすいよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室を使って頂いたり又椅子を移動させて会話をしたり気楽に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭で使われていたタンスや家具など使用されたり写真や趣味で書かれた絵など飾らせて頂いたりご本人にとって居心地の良い空間となる様に配慮しています。	入居時に使い慣れた物を持ってきてもらうように伝え、机や椅子、テレビ、化粧品、家族の写真等を持ち込み家族が配置し、利用者の動きや使い勝手、安全を考慮して職員が配置を変更することもあります。写経や化粧を楽しむ等過ごしやすく快適な居室作りを支援しています。清掃は居室の担当が利用者と一緒に毎日行い清潔の保持に努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	滑り止め素材を使用して床で手すりも多く設置しており食堂、リビング、トイレ等バリアフリーで自由に歩いて移動出来る様にしています。		